

平成7年度卒業論文題目一覧

- | | |
|---------|---|
| 四十野 さつき | ヒトラーとプロパガンダ映画——レニ・リーフェンシュタールの歩んだ道—— |
| 秋山 智子 | 与格の言語史的研究 |
| 浅川 利恵子 | ゴットフリート・ケラーの『村のローメオとユーリア』について |
| 安藤 博宣 | 『長くつをはいた牡猫』を巡る世界 |
| 市原 麻衣子 | Clemens Brentano und Heinrich Heine——die religiöse Moral in den „Loreley“-Gedichten—— |
| 伊東 文代 | ヘルマン・ヘッセの『デミアン』について |
| 井上 綾 | グリム童話における暴力と性、それに関する女性問題について |
| 井上 公生 | 『デミアン』について |
| 上田 悟 | レマルクとその時代——『西部戦線異常なし』をたよりに—— |
| 上中 春喜 | ナチス時代の文化政策と詩について |
| 上野 優子 | 『三文オペラ』におけるクルト・ヴァイルの研究 |
| 内海 寿子 | 市民悲劇『ミス・サーラ・サンプソン』におけるレッシングの意図 |
| 太田 素子 | シラー『オルレアンの乙女』におけるジャンヌ・ダルクの心理変化・葛藤について |
| 岡野 準子 | グリム童話における魔女とその系譜 |
| 小木曾 恵美子 | 異文化理解と外国語教育 |
| 尾田 華子 | Hugo Ball——Sein Leben und seine Werke—— |
| 鬼池 勇人 | E. T. A. Hoffmann『大晦日の夢の冒険』第4章『失くした鏡像の物語』を軸とした作品解釈 |
| 鎌田 一磨 | Die Typographie im Bauhaus |
| 河本 華子 | 名詞屈折の言語史的研究 |

- 小林 尚武 ヘッセ『クヌルプ』について
- 小林 紀子 方言と標準語——ドイツ語圏スイスにおける言語状況を手がかりに——
- 後藤 麻理亜 ドイツ語を母国語としない人たちのためにつくられたドイツ語教科書を参考とする、日本の中学校で使用する英語の教科書についての考察
- 嵯峨 紀子 グリム童話の残酷性
- 下村 美由紀 女性を取り巻く労働環境（東ドイツ・西ドイツ・日本を比較して）
- 真藤 昭子 グリム童話『白雪姫』——未来ヘメルヘンを語り継ぐために——
- 鈴木 紀子 『グリム童話集』における『千枚皮』について——グリム兄弟がメルヒェンに託した思い——
- 高山 温奈 Romantik in den Gedichten des frühen Heine
- 辰己 太司 ドイツ語の動詞の変化
- 田中 正太郎 Über die „Nordsee“ in „Buch der Lieder“
- 田中 路子 いわゆる „Modalität“ から見た „Modalverben“
- 辻田 祐果 ミヒャエル・エンデの『モモ』における「2人の父」の影響
- 田頭 純子 Volksetymologie による語源解釈について
- 徳矢 晃子 グリム童話を探る——『ラプンツェル』を道標に——
- 友谷 静江 日独戦争とその背景——俘虜について——
- 内藤 朝日子 アルトゥーア・シュニッツラー『死者は語らず』について
- 仲尾次 直子 アルトゥーア・シュニッツラー „Die Toten schweigen“ に見る愛と死の姿
- 中田 薫子 Was ist Anna Blume?
- 中山 全広 ギュンター・グラス『ブリキの太鼓』——オスカルの不安の考察——
- 西畑 晋治 ヘルマン・ヘッセ『メルヒェン』について
- 萩原 佳宣 『マイン・カンフ』について——ヒトラーの人種主義

- と民族論——
- 橋 崎 優 子 『軍人たち』の時におけるレンツの社会批判および社会観について
- 林 大 造 ヘルマン・ヘッセ『デーミアン』について
- 原 芳 正 E. T. A. ホフマンが外国で高く評価された理由について——『賭博師の運』を例に——
- 福 井 千 春 「最底辺」へと潜入する——西ドイツ産業社会の実態とある物語——
- 福 岡 淳 子 『ナルチスとゴルトムント』——自己実現とは何か——
- 福 本 幸 子 ドイツの食文化史——文学作品の中における食文化——
- 古 川 洋 子 Märchen と Sage——両者の構造分析試論——
- 松 本 勝 『若きヴェルターの悩み』論
- 三 上 洋 子 対格の言語史的研究
- 村 橋 かおり ドイツにおけるクリスマス文化史
- 恵 奈緒子 属格の言語史的研究
- 森 野 明 子 ゲーテの『親和力』におけるエドアルトとオティリーエの死についての一考察
- 山 下 潤 子 ヘッベルの『マリア・マグダレーネ』に描かれた女性達について
- 芳 野 文 典 ドイツ語科教育法のこれから——伝達能力の養成を目指して——
- 吉 村 明 子 ゴットフリート・ケラーの『三人の律義な櫛職人』について
- 金 城 朱 美 ドイツと日本に於ける伝承説話の比較文化考証——比較文化学的試論——
- 木 村 聰 子 異文化間コミュニケーション
- 木 村 友 子 ドイツにおける外国人労働者子弟の教育
- 郡 司 つぶら 人はなぜ Märchen を必要とするのか？

- 武 田 康 弘 フリードリヒ・ヘルダーリン『ヒュペーリオン』におけるヘルダーリンの思想
- 安 原 幹 夫 『三文オペラ』の成功とその時代——ペルトルト・ブレヒトの思想と魅力——
- 藤 村 紀代子 『ハーメルンの笛吹き男』——新しい鼠捕り男伝説の一考察——